

特定行為研修修了者の役割

クリティカルケア認定看護師 やのしろ
 箭代 理沙



はじめに

在宅医療の推進や医師の働き方改革により、個別に熟練した看護師のみでは足りず、医師又は歯科医師の判断を待たずに、一定の診療の補助を行う看護師を養成し確保していく必要があると言われていいます。

「特定行為に係る看護師の研修制度」は、保健師助産師看護師法に位置付けられた研修制度であり、2015年10月より開始となりました。

特定行為とは

特定行為とは診療の補助であり、実践的な思考力及び判断力並びに、高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされる医行為の

ことを言います。実践では医師の指示を待たずに介入することで、タイムリーに対応することが可能となりました。

ICUでは、呼吸器管理下にある患者さんが安全に離脱できるように設定の変更や、血圧観察のための動脈ライン留置などを実施。

一般病棟では、呼吸状態が悪化している患者さんの観察についての相談や、酸素療法中の場合の投与量の減少などを検討し重症化・急変回避に繋がるよう対応。

医師の指示を待たずに介入することで、患者さんに寄り添うことができ、状況に応じて対応することで安心して入院生活を送ることができるのではないかと思います。

最後に

現在、活動開始初年度ですが、呼吸ケアチームでの活動を通して他部門でも役割を知ってもらい、相談や特定行為実施依頼が少しずつ増えています。今後も特定行為研修で培った臨床推論や観察力を活かし、入院患者さんの苦痛緩和や重症化の回避のために取り組んでまいりたいと思います。



DX(デジタルトランスフォーメーション)推進について

総務課 主任補 河野 桂治



総務課メンバー（左が筆者）とDXに関する資料

当院総務課にて過去5年間で採用したDXについて簡単にご紹介いたします。

1.出退勤の客観的管理

応研株式会社の「スマート大臣（打刻）」。医師の働き方改革への対応のため、2020年5月から部分的に導入。専用タブレットにICカードをかざすだけで出退勤時刻の記録が可能。

2.ビジネスチャットアプリ

NTT西日本の「elgana」。コロナ感染症流行期において、対応に急を要する際に使用した。個人用のLINEは、セキュリティに個人差があることと、採用・退職・人事異動に伴うグルーピングを法人が一元的に管理できないことから不採用。

3.安否確認・一斉通報アプリ

NTTコミュニケーションズの「Biz安否確認」。遅ればせながら

2022年2月に導入。同年9月と2023年の9月に行った大規模災害訓練の際にテスト運用。メールアドレスや電話番号の変更影響をうけないアプリ方式を採用。

4.クラウド型年末調整

2022年は「SmartHR」、2023年は「スマート大臣（年調申告）」を使用。SmartHRは労務管理全般における多彩なパッケージ仕様だが、その分高価。スマート大臣（年調申告）は切り売りがなされている分比較的導入しやすい。職員は個人のスマホで5分から10分もあれば入力可能。給与担当者は用紙の配布や回収・入力作業の大幅削減ができる。

5.クラウド型人事考課

株式会社日本経営の「人事評価NAVIGATOR」。2023年度から導入。従来の紙の仕様と同じものが画面上で操作できるため、違和感なく使用できる。個人のスマホやパソ

コンからログインできるため、場所を選ばない。考課対象者が多いほど効率よく管理できるため、上位者にとっても勤務負担軽減効果が高い。

今後の予定としては、クラウド型文書回覧システムの導入を検討中です。公文書や稟議書（当院では「決裁書」）へのアクセスを速やかに行い、周知・決裁までの時間短縮を図ります。

個人情報保護の観点から、クラウド型の場合は国内サーバーであるかを確認すること、秘匿性の高い情報を取り扱うサービスについては職員から同意書を得ることに注意を払っています。

今後も積極的に新しいことに挑戦し、業務の効率化を図っていこうと思います。